

【緑地を楽しむ本】

## 『ちきゅうのかいだん』

まつおかたつひで 作・絵 金の星社



子どもの頃、都内にあった我が家の庭をシャベルで少し掘るとかならず、瓦のかけらや皿の破片などが出てきます。土を掘ればそんなものが出るものだと思っていました。

今考えると私が生まれる何年か前にあった第二次世界大戦、東京大空襲の名残だったのですね。10 数年の経過で、その時出来たがれきの山は、既に土の中に潜ってしまっていました。あの頃もっと深く掘り進んだら、より下の地層から古い時代の遺物が出てきたのかもしれない。

そんなことを考えたのは、『ちきゅうのかいだん』を読んだからでしょうか。男の子と犬のギンタが扉を開くと、なが〜い階段が地球の下の方へ連れて行ってくれます。下にいくほど、古い時代。初めは2万年くらい前のアメリカ、先住民がバイソン狩りをしています。

どんどん下に降りて（時代を遡って）いき、その時代に活躍した生きものたちを見ることが出来ますが、3000 万年前くらいまでは、なんとなく見たことのある動物たちです。その下は子ども達が大好きな恐竜の時代、花を咲かせる植物や昆虫も現れました。

どんどん階段を降りて3億6000万年も前には、生きものはすべて水の中です。38億年前になると海は、小さないきものしかいない、命が始まる世界になります。それより下は生きものが全くいない世界、マグマに覆われて…地球が生まれた46億年前まで降りてくると、出口の扉があり、無事に外に出ることができました。良かった！

地球上に生きものが生まれてきた歴史を、地球の階段を降りながら知ることが出来ます。すべての生き物は同じ祖先から出て、少しずつ、少しずつ変化をしていっているのだと感じました。

(小川)